2019（平成31）年度入学試験問題

国　語

（注意）解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

盈 進 中 学 校

一　次の――線部の漢字の読みをひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。

① 尊い身分の人。
② 長い時間を費やす。
③ つい本音をもらす。
④ 家路を急ぐ。
⑤ 山の頂から見下ろす。
⑥ 在庫の有無を確認する。
⑦ 地名の由来を調べる。
⑧ 画期的な方法を考える。
⑨ 規則の是正を求める。
⑩ 作者の意図をつかむ。
⑪ クラスの目標をトナえる。
⑫ マズしい生活に負けない。
⑬ 紙くずをごみ箱にスてる。
⑭ 百年のデントウがある学校。
⑮ フシギなできごとが起こる。
⑯ 五人の点数のヘイキンを出す。
⑰ 堂々とムネを張って歩く。
⑱ 大きくシンコキュウする。
⑲ 地下シゲンを利用する。
⑳ 仕事のノウリツが上がる。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

自然と文化の間にある人間の表情に「笑い」がある。「笑う①には福来る」という。笑い声の絶えない家には幸福がやってくるという意で、楽しく朗らかに日々を過ごすことの大切さを伝える言葉だ。

笑いとはそもそもどんな表情だろう。冷笑、苦笑、失笑など、楽しいとはいえない笑いもある。人間の笑いは楽しさや喜びだけを表しているわけではない。私たちはなんのために笑うのだろう。動物は笑わない。馬にはフレーメンという笑いに似た表情と声があるが、これは発情の証しであってホルモンの作用によるものだ。犬は笑う代わりに尾を振るし、猫もゴロゴロ喉を鳴らすが無表情だ。彼らの顔には毛が生えていて、②笑っても表情がよく見えない。

人間に近いサルは笑いの表情があるが、それには二つの由来があるといわれている。そもそも③原始的な夜行性のサルは笑わない。夜で顔が見えないし、彼らは単独でなわばりをつくって暮らしていることが多く、仲間どうしで笑う必要がない。自分のなわばりに他のサルが侵入したらほえて威嚇し、追いはらう。自分が他のサルのなわばりに入ったら同じことをされる。いっしょにいられるのは交尾期のオスとメス、それに成長期の子どもと母親だけで、複数のサルがいっしょにいることはない。だから、笑いとは人間の祖先であるサルの仲間が昼の世界に進出し、群れをつくっていっしょに暮らしはじめてからできた表情であることがわかる。

④、サルはいったいどういうときに笑うのだろう。ニホンザルは、強いサルに出会ったとき、歯をむきだして笑いのような表情を見せる。でも楽しくて笑っているわけではない。自分が劣位で敵意をもっていないことを知らせ、相手から攻撃されないようにしているのだ。ニホンザルは食物や休み場、交尾相手などをめぐるトラブルを、すぐに勝ち負けを決めて解消しようとする性質をもっている。相手が自分より強ければすぐに敗者の態度を示し、それ以上争いがaエスカレートしないようにしているのである。⑤笑いは敗者の表情なのだ。ときにはキッキッとおびえたような声がともなう。それを見ると、相手の強いサルは決して笑わず、堂々と餌を横どりし、その場を占有する。争いを起こさなかったことが笑いに対する応答なのだ。

もう一つのサルの笑いは、遊びの際に現れる。サルたちがとっ組み合って遊んでいるとき、口を開けてかむような行為をする。本気でかむわけではなく、いかにも楽しく興奮した表情だ。ゴリラやチンパンジーなど人間に最も近い類人猿になると、はっきりと笑いとわかる表情をつくるし、グコグコグコとくぐもった笑い声が出る。とくに年下の子どもが笑い声を出すことが多く、追いかけ合ったり組み合ったり、遊びが長続きするときは

笑い声が絶えない。

人間の笑いは、この二つのサルの笑いに由来するといわれている。微笑は相手に自分が敵意を持っていないことを伝え、相手との緊張を解く。そもそも劣位な態度や謙譲を示すために用いられてきたのかもしれない。微笑は、戦わないことや和解を前提としたあいさつなのだ。微笑を浮かべる相手に※尊大な態度をとる者は笑わない。それはサルと同じで、相手の態度によってはまだ戦う用意があることを示している。

でも人間の笑いの多くは、サルたちの遊びの笑いに由来する表情だ。そこには相手と楽しさを共有しようとする気持ちが含まれている。それは、遊びには双方が対等の立場で積極的に参加するという条件があるからだ。どんなに力の強い者でも、遊びは相手に強制できない。どちらかがやる気を失えば、遊びは続かない。そのために力の強いほうが自分にb<u>ハンディキャップ</u>をつけ、相手の力を引きだすように誘いかける。そして、追いかけたり追いかけられたりというように、頻繁に役割を交代しながら楽しさを追い求めるのだ。

人間がよく笑うのは、このような遊びの精神を仲間との関係にとり入れて日常生活を送っているからだ。さらに高い共感能力をもち、仲間の気持ちがよくわかるから、笑いを共有する機会も多いのである。人間は相手からの笑いを期待して笑いかける。自分が笑いの種を提供し、笑いの対象になることで、みんなから笑いを引きだそうとする。それをやりすぎたり、誤った方向へ行ったりすると失笑や苦笑になるのだ。

サルの笑いと違うのは、人間の笑いが周囲の人々を引きこむ効果をもっているという点である。サルの笑いはあくまで当事者に限られる。人間に近いゴリラやチンパンジーの笑いも、相手を引きこみ遊びを長引かせる力はあるが、周囲の仲間をいっしょに笑わせるような大きな影響力をもたない。しかし、人間の笑いは周囲に伝染し、多くの人々がいっしょに笑い、愉快で楽しい気分に浸ることができる。これが多くの人々を和ませ、結びつける。その経験によって私たちはそれまでの敵意を弱めたり、より強いきずなを結んだりできる。笑いは人間の生理現象であると同時に、⑥<u>重要な社会的コミュニケーションの手段</u>でもあるのだ。

アフリカで野生のゴリラとつき合っているとき、だんだん自分の顔の表情が乏しくなっていくことに気がついたことがある。笑う機会が少なく、顔が次第にこわばってくるのだ。顔の表情は、人と顔を合わせることによってつくられるのだとつくづく思ったものだ。

ところで今、私たちは笑うことの多い暮らしを営んでいるだろうか。パソコンに向かい、ペットたちとだけ会話をする毎日を送っていると、表情をつくる機会も笑うことも少なくなる。笑いは人間の証しであり、人々に和をもたらす最良の手段であることを忘れてはいけない。サルの笑いではなく、福を呼ぶ笑いを浮かべて日々を過ごしたいものである。

（山極寿一『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』より）

※威嚇…力を示しておどす。
※劣位…おとっている位置。
※占有する…自分のものにする。
※尊大…えらそうにいばっているようす。

問一　①に入る漢字一字を答えなさい。

問二　②・④にあてはまる言葉として、最も適切なものをそれぞれ選びなさい。

②……　ア　しかし　　イ　たとえ　　ウ　なぜなら　　エ　そして

④……　ア　では　　イ　だから　　ウ　また　　エ　たとえば

問三　――線部③「原始的な夜行性のサルは笑わない」とありますが、それはなぜですか。その理由を三十字以上四十字以内で答えなさい。

（句読点も一字にふくみます）

問四　═══線部a・bの言葉の意味として、最も適切なものをそれぞれ選びなさい。

a　「エスカレート」

ア　拡大　　イ　発生　　ウ　延長　　エ　進出

b　「ハンディキャップ」

ア　距離（きょり）　　イ　不利益　　ウ　道具　　エ　利益

問五　――線部⑤「笑いは敗者の表情」とありますが、そう述べる理由として誤っているものを次から選びなさい。

ア　敵意を持っていないことを知らせ、攻撃されないようにするため。
イ　トラブルになった時に、すぐに勝ち負けを決めて争いを解消するため。
ウ　はっきりとした笑いとわかる表情をつくり、遊びを長続きさせるため。
エ　相手が自分より強いということを認めているという態度を示すため。

問六　～～～線部の「主語」と「述語」にあたる部分を、次からそれぞれ選びなさい。

「ア　人間の　イ　笑いは、ウ　この　エ　二つの　オ　サルの　カ　笑いに　キ　由来すると　ク　いわれている。」

問七　――線部⑥「重要な社会的コミュニケーションの手段」とありますが、これと同じ意味を表す表現を本文中から十四字で抜き出しなさい。

問八　この文章で述べられている内容にあっているものには○、まちがっているものには×を答えなさい。

1　もともと夜行性のサルが昼の世界に進出し、単独のなわばりから群れをつくって暮らすようになって、サルの笑いの表情が生まれた。
2　サルには二つの笑いがあり、ひとつは争いをさけるための笑いであり、もうひとつは争いを起こさなかったことへの喜びの笑いである。
3　人間の笑いはサルの二つの笑いに由来するものであるが、その笑いの多くは、戦わないことや和解を前提とした平和を求めるものである。
4　人間とサルの笑いの違いは、周囲を引き込む効果があるかどうかという点であり、サルの笑いは周りを和ませ仲間と結びつける力はない。

三　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある事件がきっかけとなり、学校にも家にも居場所がないと感じていた四年生の壮太は、偶然テレビで紹介された「山村留学センター」のことを知り、転校する。そこでは、小学二年～六年生の十三人の子どもたちが、自分たちで食材となる魚を釣ったり、地元の人と協力しながらお祭りを運営したりと、のびのびとした毎日を送っている。

釣りの帰りに、みかんの葉っぱの上にアゲハの幼虫を見つけた。

A　みかんの葉　アゲハの赤ちゃん　見つけたよ

よっしゃあ、一句ゲット。

空高小学校では俳句作りがさかんだ。月に一回、集落の田中さんのおじいちゃんが来て指導してくれる。明日がその日だから今日の宿題は、俳句を三句作ること。

アゲハの幼虫は、鳥の糞にそっくりだ。小さな黒い体に白い点がポチッとついている。ぱっと見、鳥のうんこにしか見えない。そうやって外敵から身を守っているんだ。

B　鳥さんへ　食べるなぼくは　ウンチだよ

よしっ、二句目ゲット。すごいぞ、おれ。すごいぞ、幼虫。

絶好調のぼくは、みかんの葉っぱごと幼虫を持って帰ることにした。

「それ、どうするん？　壮くん」

しなる柳の枝で、みかんの葉をびしっびしっとたたいていた、たくとが聞く。

「飼う」

「えぇー、虫を飼うの？　部屋でぇ？」

雄大がのけぞった。①図鑑で知った知識はめちゃくちゃ豊富なくせに、雄大は虫が苦手だ。触れない。洗濯物についたカメムシにいつも大騒ぎしている。カメムシはくさいからぼくも嫌いだけど、アゲハの幼虫はかわいいじゃないか。

「大きくなってチョウになるまで育てる」

ぼくは［②］した。

松つぁんに言うと、透明のプラスチック製の飼育ケースを物置から出してくれた。

「サンキュ。これお礼のヅラ」

スモークツリーのほわほわの花を束にしてあげたら、

「こらっ、しばくぞ」

と元さんの真似をして、ほんとうにしばかれた。松つぁんはまだ独身なのに、頭のトップがはげかけてるのを気にしている。

散らかった机の上のものをわきにやって、ど真ん中に飼育ケースを置いた。

俳句の清書をする手をとめてじっと観察していると、幼虫が葉っぱの上にウンチをした。ちっちぇー。直径ほんの一ミリくらい。そうしてまたすぐに葉っぱを食べ始める。なんかその様子が一生懸命って感じでめっちゃかわいい。

C　幼虫くん　食べてはうんこ　元気だね

よっしゃあ、三句目ゲット。宿題完了。

「壮くん気持ち悪いー。だって虫見て一人で笑ってるんだもん」

いくら雄大に気味悪がられても、その日以来ぼくは幼虫に夢中になった。

何日かして、幼虫は緑と黒のくっきりしたストライプ模様に変身した。

「超かっこええー」

たくとは大興奮だ。

「進化系だね」

幼虫がほめられると、ぼくは自分までほめられたみたいで気分がよかった。

「香りの強いもんが好物だからな。これも入れてやれ」

松つぁんがサンショウを枝ごと切ってきてくれたので、水を入れたびんにさしてやった。こうしておくと葉がしおれなくて、いつでも新鮮な葉が食べられるんだって。

幼虫は何本もある足でがしっと枝に取り付いて、盛大な食欲を見せた。そしてぐんぐん大きくなった。

脱皮するときは葉っぱの上でじっと動かなくなる。幼虫にしたらきっと命がけの大仕事なんだろう。がんばれ、幼虫くん。日に日にかわいくなる幼虫に目を細めたぼくが、

「でっかい頭。目が離れてるとこが愛嬌があるよなあ」

と言うと、雄大が、

「あれは目じゃないよ。鳥をおどかすための目くらましで、ほんとうの目はもっと下にあるんだ」

と教えてくれた。夜ベッドで横になると、机の上の飼育ケースから幼虫が葉っぱをかじるかすかな音が聞こえてくる。チリチリ、チリチリ。ぼくは毎晩、その音を子守歌に眠りに落ちた。

脱皮を繰り返して、幼虫は五センチほどの大きさになった。入れても入れても葉っぱを食い尽くす。ある日たくとが、

「こちょこちょしてやろう」

と枝にしがみついてる幼虫の足をネコジャラシの穂でくすぐった。すると、いきなり幼虫はでっかい頭をもたげてオレンジ色のつのを出した。すごい匂いだ。カメムシより強烈。

「くっさー」

匂いに敏感なたくとはあわてて鼻をつまんで退散した。

「はっはっ。怒ったんだ。やるな、おまえ」

ぼくはますます幼虫がかわいくなった。

あんなに食欲旺盛だった幼虫が、急にえさを食べなくなった。おまけにべちょべちょのウンチをいっぱいした。心配するぼくに、

「そろそろサナギになるんだろ」

なんでもないことのように松つぁんが言った。その晩ぼくは、好物のカレーをおかわりしなかった。

松つぁんの予想どおり、翌朝起きたら、飼育ケースの透明プラッチックの壁にサナギになった幼虫が張り付いていた。あんなに鮮やかな色合いで愛嬌たっぷりだった体は硬いカラにおおわれ灰色で、まるでモビルスーツを着ているみたいになった。おまけにまったく動かない。

一週間ぐらいでチョウになると、雄大は言った。一週間はぼくにとっては永遠と同じだ。釣りに、川遊びにと夢中になっているうちに、ぼくはだんだんサナギに興味を失っていった。

木曜日の夜だった。時間割をしながらふと飼育ケースに目をやると、なにか様子が違っていた。

「あれ？」

ぼくはあわててケースにとびつき、サナギに目をこらした。薄く半透明になったカラ越しに、中のチョウの羽が透けて見えている。

「羽化だ、羽化が始まった！」

ぼくは廊下を走り回ってみんなに知らせた。宿題を放り出して、みんながどやどやとぼくらの部屋に集まってきた。事務室でたくとの音読を聞い

てやっていたセンター長まで、「どれどれ」とやってきた。

b 息をこらして全員が見守る中、カラをやぶってアゲハが頭を出した。ごくっ。ぼくはつばを飲みこんだ。

「出た！」

たくとが叫び、みんなが「しー」と指をたてた。興奮するとたくとはじっとしていられない。雄大の足をがんがん蹴って、「やめて！」と黄色い声をあげられていた。

アゲハはゆっくりと時間をかけて前脚を壁にかけ、体全体を出そうとするんだけど、飼育ケースのプラスチックがつるつるすべるせいで、うまくいかない。

――しまった。ダンボールかなにか、すべらない入れ物に移してやればよかった。

後悔したけど、もう遅い。動かなくなったサナギに興味を失ってしまった自分をなぐりつけたくなった。今となってはもう、息をつめて見守ることしかできなかった。

ようやくなんとかカラから抜け出すことに成功したアゲハは、抜け殻の中におしっこをした。

「きゃはははは、おしっこ、おしっこ」

大声をあげるたくとに、ふたたびみんなが「しー」と指をたてた。

次の瞬間だった。ふるふるふるえるアゲハの細い脚が壁をつーとすべって、アゲハは飼育ケースの床に落下してしまった。

「あー」

今度は全員の口から声がもれた。

飼育ケースの床に落ちたアゲハは動かなかった。まだぬれているような羽も閉じられたままだ。

――死んだのか？

体中の血がさーと引いて、心臓が音をたてて鳴り始めた。

だれも、なにも言わなかった。十秒、二十秒……。アゲハはまったく動かない。見守っていたみんなは一人、二人と引き上げていった。センター

長はなにも言わず、ぼくの肩をとんとんとたたくと、

「ほれ、音読の続きやるぞ」

と、たくとを引き連れ、事務室にもどっていった。

一人になると涙が出た。ぽたぽたぽたぽた、雨だれみたいに飼育ケースの底に落ちていく涙をじっと見ていた。

――どうしてサナギになったとき、もっと気をつけてやらなかったんだろう。

どうして、どうして。自分への問いばかりが頭の中で渦を巻く。

そうしてどのくらいの時間がたったのか、雄大とたくとが風呂に入る用意をしに部屋にもどってきたときだった。まったく動かなかったアゲハの糸のように細い脚がかすかにふるえているのに気がついた。最初はぼくの息のせいかと思った。だけど違った。息をとめてもやっぱり動いている。

「生きてる！」

思わず立ち上がって叫んでいた。

「うそ！」

雄大とたくとが駆け寄ってきた。

「よかったねえ、壮くん」

たくとの声かけに、泣き笑いで答えた。

「羽を広げるためにつかまる場所を探してるんだ。壮くん、早く棒を立ててやらなきゃ」

こんなときは雄大の知識が頼りだ。はじかれたようにぼくは調理室へと走り、割り箸片手に猛ダッシュでもどった。

「どしたんや、壮太」

ぼくのあまりの勢いに、センター長が事務室から顔をのぞかせた。

プラスチックの壁に割り箸を立てかけてやると、待っていたかのようにアゲハは前脚を伸ばして一歩一歩上っていく。そして床から十センチほどのところでぴたりと静止すると、ゆっくりと羽を広げ始めた。

「わあ」

思わず声が出た。思っていたよりずっと大きい。羽のはしからはしまで十センチはゆうに超えてる。黒に少し青みがかった黄色の模様がものすごくきれいだ。

「羽がやぶけとる」

たくとが言った。四枚ある羽のうち、下の一枚のとがった先が破れて垂れ下がっていた。きっと床にすべり落ちたときに傷ついたんだろう。

③ほんとうはぼくも気がついていた。だけど、こわくて口にできなかった。

「おう、とうとう羽化したか」

蚊にさされたのか、おしりをぼりぼりかきながらセンター長が入ってきた。

「……羽が、破けとんよ」

涙声になったのが恥ずかしかった。

「どうれ」

あわてもせず飼育ケースをのぞきこんだセンター長は、

「ほう、立派なアゲハになったなあ。壮太が一生懸命世話したからなあ」

と感嘆したような声をあげた。

「……でも、羽が……」

「大丈夫だ、このくらい。心配するな。ほれ、外に放してやれ」

センター長にうながされ、ぼくはそっと手を飼育ケースに入れた。

「羽じゃなくて、胴をつまめよ」

言われるまでもなく、そのつもりだった。これ以上羽を傷つけたくない。たくとが急いで窓の網戸を開けに走った。

指がふるえているのが自分でもわかった。力の入れ加減が難しい。入れすぎるとつぶしちゃいそうだし、入れなさすぎるとつまめない。

――つかまえた！

全神経を集中した人差し指と親指に、生きてるアゲハのわななきが伝わる。バタついた拍子(ひょうし)に鱗粉(りんぷん)が舞(ま)った。ぼくは窓辺へとダッシュし、アゲハを空中に放った。一瞬落下しそうになったけれど、すぐにアゲハは羽をバタつかせて、ひらひらと外灯の下で旋回(せんかい)した。夜見るチョウはきれいだった。黒い羽が外灯の明かりを受けて、キラキラ光る。

「どや、壮太。ここで一句」

センター長に言われたけれど、俳句なんてまったく浮(う)かばなかった。ぼくはただ黙(だま)って、外灯の下で舞い続けるアゲハの行方(ゆくえ)を目で追っていた。

④生き物ってすごい。弱いけど強い。

（八束澄子『ぼくらの山の学校』より）

問一　A～Cの俳句の中で、アゲハの幼虫の立場になって詠(よ)んでいる句を選び、記号で答えなさい。

問二　――線部①「図鑑で知った知識はめちゃくちゃ豊富なくせに、雄大は虫が苦手だ」とありますが、雄大が壮太に、チョウに関する知識を教えている場面がいくつかあります。雄大が教えた知識を二つ、それぞれ簡潔にまとめなさい。

（文を抜き出すだけの答え方は不可とします）

問三　②にあてはまる言葉として、最も適切なものを次から選びなさい。

ア　助言　　イ　名言　　ウ　宣言　　エ　発言　　オ　予言

問四　═══線部ａ・ｂの語句の意味として、最も適切なものをそれぞれ選びなさい。

ａ「目を細めた」

ア　細部までよく観察しようとした
イ　顔全体にほほえみをうかべていた
ウ　どこに目があるのかさがしていた
エ　全体の大きさを測ろうとした

ｂ「息をこらして」

ア　はげしく息をし、興奮して
イ　大きく息をして、気持ちを落ち着かせて
ウ　息をするのを忘れるぐらい夢中になって
エ　息をおさえるようにして、じっとして

問五　――線部③「ほんとうはぼくも気がついていた。だけど、こわくて口にできなかった」とありますが、このときの壮太の心情として、最も適切なものを次から選びなさい。

ア　チョウの羽の一部が破れかけているような気がしていたが、あいまいなことを言ってみんなに心配をかけたくなかった。
イ　チョウの羽の一部が破れかけているのは明らかに自分のせいであり、みんなに文句をいわれそうでいやだった。
ウ　チョウの羽の一部が傷つき破れかけていて、自分がそのことを言ったとたんに完全にとれてしまいそうな気がした。
エ　チョウの羽の一部が破れかけている現実を受け入れなければならないのがつらく、そのことを口にしたくなかった。

問六　――線部④「生き物ってすごい。弱いけど強い」について、次の問いに答えなさい。

（1）　このときの壮太の心情について説明した次の文の［　Ⅰ　］、［　Ⅱ　］にあてはまるように、それぞれ十五字以上で答えなさい。答えは「～ところ」につながる文にすること。**（句読点も一字にふくみます）**

壮太はアゲハチョウの［　Ⅰ（十五字以上）　］ところに「生き物の弱さ」を感じた。と同時に別の気持ちを持った。それはアゲハチョウの［　Ⅱ（十五字以上）　］ところに感じた「生き物は強い」という思いだった。

（2）　「弱い」と「強い」は意味の上で反対の関係にある言葉です。あなたがこれまでに体験したり、見たり聞いたりしたことで、「弱い」と「強い」（「弱さ」と「強さ」）を感じたことについて、あとの条件を満たして書きなさい。**（句読点も一字にふくみます）**

書くときの条件

①　文章は二段落に分けて書きなさい。

・一段落目には、「弱いと（弱さを）感じたこと」について、八十字以上、百字以内で書きなさい。

・二段落目には、「そのときに強いと（強さを）感じたこと」を八十字以上、百字以内で書きなさい。

・二段落目の書き始めは、**「またそのときに強いと（強さを）感じることがありました。それは」**に続く形で書きなさい。

②　文字は、濃く、大きく、ていねいに書きなさい。

二〇一九(平成三十一)年度　国語入学試験問題

解答用紙

盈進中学校

受験番号

一　小計

①	⑥	⑪	⑯
い		える	
②	⑦	⑫	⑰
やす		しい	
③	⑧	⑬	⑱
		てる	
④	⑨	⑭	⑲
⑤	⑩	⑮	⑳

二　小計

問一

問二
②

④

問三
30
40

問四
a

b

問五

問六
主語

述語

問七
14

問八
1

2

3

4

三　小計

問一

問二
一つめ

二つめ

問三

問四
a

b

問五

問六
Ⅰ　ところ

Ⅱ　ところ

問六
①
100
80

問六
②
100
80

また　そのときに　強い
と　感じる　ことが　あり
した。　それは

二〇一九(平成三十一)年度　国語入学試験問題

解答用紙

盈進中学校

受験番号

合計

一

小計

① とうとい
② ついやす
③ ほんね
④ いえじ
⑤ いただき
⑥ うむ
⑦ ゆらい
⑧ かっきてき
⑨ ぜせい
⑩ いと
⑪ 唱える
⑫ 貧しい
⑬ 捨てる
⑭ 伝統
⑮ 不思議
⑯ 平均
⑰ 胸
⑱ 深呼吸
⑲ 資源
⑳ 能率

二

小計

問一　門

問二　②　イ
④　ア

問三　夜は顔が見えず、単独で暮らしていることが多く、仲間どうしで笑う必要がないから。（解答例）　30

問四　a　ア
b　イ

問五　ウ

問六　主語　イ
述語　ク

問七　人々に和をもたらす最良の手段　14

問八　1　○
2　×
3　×
4　○

三

小計

問一　B

問二　一つめ　頭にある目のように見えるものが鳥をおどかす目くらましであること。
二つめ　さなぎになってから一週間ぐらいでチョウになること。（解答例）

問三　ウ

問四　a　イ
b　エ

問五　エ

問六　①　Ⅰ　力を入れて胴をつかむとつぶれてしまいそうなところ
Ⅱ　羽が破れていても放ったら舞い続けるところ
（解答例）

②　僕はサッカーのクラブチームに入っていました。新チームになって最初の大会に先発メンバーとして出場しましたが、僕もみんなも舞い上がってしまいミスを連発して敗けました。自分たちは弱いと悲しくなりました。
またそのときに強いと感じることがありました。それはコーチから「敗けた時こそ力を伸ばすチャンスだ。敗けから学べ。」と言われて話し合いをし、前向きな気持ちになれたことです。チームのつながりを感じました。
（解答例）　100　80　100　80